EGGPLANT

エッグプラント
那須ファミリー
ホームスクール通信
2005.9.1
No.14

コル・シャローム

以前から、四人組でよく賛美をしていました。ダークダックスに対抗して、ダークシープ（羊）などとおどけた名前をつけていました。実際にはそんな名前で舞台には立てず「男性コーラス」など事務的な抽象名で通してきたのです。ところが、突然「コル・シャローム」という正式名称がつきました。他教会から出演を依頼されたゆえです。

ヘブライ語で「コル」とは「声」、「シャローム」とは「平安・平和」という意味で、全体で「平和（平安）の声」となります。かっこいい写真まで撮ってもらいました！

今回歌う歌の中に、童謡・唱歌や有名なゴスペルがあります。「赤とんぼ」は日本人の心を揺さぶる名曲の一つです。

夕焼け小焼けの
赤とんぼ
負われて見たのは
いつの日か

作詞は三木露風、作曲は山田耕筰です。

山田耕筰の幼い時代、日本にはアメリカからの宣教師が多くいました。彼らの影響を受けて、耕筰の母、山田ひさがクリスチャンになります。耕筰は、讃美歌を聞いて育ったのです。母親を困らせ続けた父親も病死する前に回心しました。当時十歳の耕筰は、田村直臣牧師の世話を受け、たくさんの英語の歌や讃美歌、オルガンの弾き方や西洋音楽について教わりました。

彼が十二歳の時、長女の恒子さんが、宣教師ガントレットと結婚。彼は妻の弟である耕筰の音楽の才能に気づき、関西学院に入学させ、さらに専門的に学ばせました。後に耕筰は、数寄屋橋教会で洗礼を受けました。その後、紆余曲折はあったものの、彼の魂の根底には聖書信仰が流れていたようです。

かたや三木露風もキリスト者だったそうです。四番の歌詞「止まっているよ、竿の先」の「竿」とは十字架のことではないかとも言われています。七歳で母親と生き別れ、やがて姉も嫁に行き、音信が途絶えるという悲しみにうちひしがれた露風。彼を真の意味で慰めたのは十字架にかけられたイエスだったのかもしれません。（K）

「はじめてのサマーキャンプ」

N

キャンプにはNちゃんも来てくれました。服部緑地ユースホステルに行くのが待ちどおしかったです。行く時は、電車に乗って行きました。着いた時、公園で昼ご飯を食べました。公園はすごく暑かったです。やっとユースホステルに着きました。へやはクーラーがずっとついていたのですずしかったです。その後はフリータイムでした。そして、夕食を食べました。それが、終ったらキャンプファイヤーの用意をしました。火をおこす時に使う木を集めました。Nちゃんも手伝ってくれました。七時にキャンプファイヤーが始まりました。火の回りの木にすわりながら賛美を歌いました。そして、みんなが出し物をしました。最後に花火をしました。一番よかったのは線香花火です。そして、十時に寝ました。でもあまりねむれませんでした。

次の日、朝食を食べたら集会2が始まりました。A先生が聖書の話をしてくれました。わかりやすかったです。そして、プールに行きました。プールには流れるプールもありました。うきわに乗っているとかってに流れるプールでした。それが一番楽しかったです。帰り道、雨がザーザーふっていました。でも、いい思い出になりました。来年のキャンプが待ちどおしいです。

こんなことしました！　行事報告

八月

一～二日　「観るから知るへ、知るから学ぶへ
星空リピーター、スター・キッズの挑戦」
研究発表会　（写真→）
高輝度光科学研究センター（spring-8）ツアー
四日　舞州ゴミ処理工場見学会　（写真→）
広報船「夢咲」で大阪港見学
五～六日　日曜学校サマーキャンプ（服部緑地）
十～十三日　バイブルキャンプ（曽爾高原）
十四～十八日　下関帰省
十六日　健康科学センター・ピース大阪
二十六日　韓国宣教師曹兄・李姉妹と共に大阪城へ

Mの読書コーナー

「神秘の島」　ジュール・ベルヌ著

これはあの「海底二万里」や「八十日間世界一周」などで有名な「あらゆる時代を通じて最大の文学的天才」といわれる科学冒険小説家のベルヌが書いた本です。

敵国から逃げ出し無人島に流れついた五人。技師、水夫、新聞記者、召使い、少年、全く職業が違う五人が助け合いながら生き延びていく冒険の物語のです。ほとんどの人は無人島での物語というと「ロビンソン・クルーソー」を挙げますが、ぼくはこちらの方が絶対おもしろいと思います。

電子機器など現代の物はないけれど豊富な資源がある島で家や畑を作り、漂流物や難破船の荷物などを使って立派に生きていく五人の物語は読み出したら止まりません。また海賊船の手から救い、影で助けてくれる謎の人物。調べて行くうちに海底二万里でてきたあの人物が・・・冒険やスリルをすさまじい描写で読者を物語に引きこむこの本をぜひ読んでください。

←曹兄と李姉妹夫妻を大阪城に案内

スターキッズ・りかキャンプの発表

H

私は一月にあったりかキャンプの発表をするために兵庫県立西はりま天文台に行きました。それはホームスクーラーの先輩のMさんが発表する研究会で、いっしょにわたしたち五人も発表するためでした。

一日目はMさんの教会で泊まらせてもらいました。そのとき、いっしょに明日のための練習をしました。もうそのときから胸がドキドキしていました。

そして二日目。朝早くから西はりま天文台に行き、練習をしていました。いよいよ私たちの発表の時になりました。どんな発表をしたかというと、国内最大級「なゆた」で土星や月やオリオン大星雲などの観測をしたときの感想などを発表しました。楽しかったりかキャンプのスライドの説明もしました。Mさんは何度も発表しているので、とても落ちついていました。私たちは初めてでしたが、大きい声ではっきりと話せました。八〇名くらいの方が私たちの発表を聞いていました。

このような経験はホームスクールでしかできないことだと思いました。また次のりかキャンプにいって天体のことをもっと知っていきたいです。

編集後記

今回は、Mが号外二号を、子ども四人だけ（上の三人と親戚の子）で帰省したことの記事を中心に作りました。本人は「かなりの出来栄え」と満足しています。編集技術も上達してきました。というわけで本編の発行が遅れてしまいました。号外はHPでどうぞ